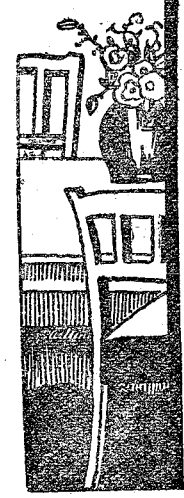
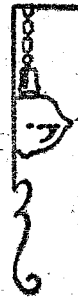


研究



マダガスカルとアリユーンシヤン (中)

—南北兩半球に互つてその歴史、産業、軍事、交通等—

H T 生

英國が今日まで生きてゐられるのは、寶庫印度を掌握して居るからと云はれてゐるが、この印度も最早や現在では英國の脚絆を脱せんとしてゐるのみならず、英國がその生命線として極力維持に勉めた、あの印度洋もまた探敵必殺の我が精銳なる海軍力によつて、制海權も制空權も我が海軍の手に完全に握られやうとなつてゐる現狀に於て、這般英國はあわてゝ阿弗利加の東岸にある佛領マダガスカル島

に突如英軍を上陸せしめて以て印度洋の制海權を守る最後の根據地たらしめんとしたのであつた。これに迷惑したのは勿論佛蘭西であつてベタン元首は早速同島の守備隊に死守を嚴命して守備兵は敢然抗戦して英軍に死者一千名以上の大損害を與へたと云ふことであるが、勿論このマダガスカル島の占領は夙に米英兩國の共同作戦の結果であることは明かであつて、米國が同島占領を英國に對して積極的に

支持したこともまた首肯出来るのである。この米國態度を見て佛蘭西の朝野は往昔米國の植民地が英本國に對して獨立戰爭を起すや、佛蘭西は西班牙と共に獨立軍に味方して、ラファエット將軍の如きは、自から有力なる軍隊を率ひいて、英軍と戦ひ、また海軍は英艦隊を牽制して獨立軍の壓迫を緩和したことが、獨立運動の先遂に多大の貢獻をしてゐるのに拘らず、西班牙の如きは十九世紀の終りに至つて米國帝國主義の犠牲となつて、曩にキューバ、グアム、フィリピン等を奪はれ、佛蘭西も今亦、その最大の屬領地であるマダガスカル島を始めカリブ海のマルチニツク島及び阿弗利加のダカール港までも奪はれんとしてゐるのに對して米國は獨立の際に於ける佛蘭西の恩を忘れたかと佛蘭西國民の憤慨するのも無理はないのである。英軍占領後に於ける我が海軍の荒鷲は直ちに遠く渡洋爆撃をこの島に敢行して英國の度膽を抜いてゐるが、このマダガスカルもやがては日本の制壓下に置かれるのは決して遠くはないと思はるのである。

更れば英軍の不法侵略のこの島の狀況を見ると。總人口は約三百六十萬程あるが、その内で佛蘭人が約一萬八千人程の外少數の印度人及び阿弗利加人アラビア人等を除いた大部分は土着人である。しかもこの土着人は約十九種族に分れてゐて、印度洋に面する東部のマダガスカル族と西部のサカラヅ族の二大群に分れてゐる。而して前者はホウア族やベツイレラ族ベツイムサラク族等がその中心をなして居るが、ホウア族の如きは嘗て全島に君臨して王朝を興したこともある位で體質的にも智能にも可なり發達をしてゐる。そして彼等は主として中央高原地帯に住みまた人口も百萬に近い有様である。佛蘭西の人類學者の説に依ると彼等は南洋方面から五六百年以前にこの島に來つたものであり、又その容貌もマレー人種に克く酷似してゐるのみならず、皮膚は黒褐色で頭髮の如きは黒く柔かいのである。このホヴァ族は最近まで佛蘭西の統治下に於ても官吏、醫師、技術家、商人等としてやつてゐるものは殆んど總てはこのホヴァ族である。故に道路の建設技術員の如きはこ

のホウア族が大半を占めて現場に臨んで設計し或は測量をなし道路工夫を使つて立派なる道路の建設に寄與してゐる。彼等の尤も多く住んで居る中央高原地帯にも幅員八米突以上の砂利敷道路が縦横に通じて居り、橋梁の如きも鐵橋、コンクリート橋、木橋等種々あつて、却々田舎道と雖も馬鹿にならないよい道路が建設されてゐるが、これ等は殆んど全部土人のホウア族の技術員の手によつて成つたものと云ふことである。ベツイレラ族もベツイムサラク族もマレー族に相似てをつて却々勤勉であり其の職業は主として農牧に従事してゐるが、この兩種族の人口は約五十萬人程あつて彼等は米を常食としてゐる。更にサカラウ族の方を見ると阿弗利加大陸から移住したものだけあつて阿弗利加人に似て皮膚は黒色、頭髮は縮れ鼻孔は太く體軀も大にしてその性質は犍猛にして殺戮を好む有様であるからこの土人等を統治する佛蘭西は餘程苦んだやうである。而して彼等は夫々異なつた言葉を使つてゐるが、ホウア族の言語がある程度共通語として通用されてゐる。

全體このマダガスカル島はグリーンランド、ニューギニア、ボルネオ及び北氷洋の英領、フィンランドに次ぐ世界第五の大島であつて、其の面積は約五十八萬五千軒で丁度我が本土より北海道と千島を除いた位である。而して島全體は火山性で到るところに温泉が湧出してゐるが地震も屢々起きるのである。中央から禰、東寄りに當つて海拔三千呎から五千呎に至る山脈が南北に走つて東方海岸は急勾配を形成して従つて斷涯絶壁が多く、西方は傾斜がゆるくして海岸近くには多少平地もある。従つて同島の道路關係は主として西方海岸線を副ふて主要道路があるが東方は急勾配絶壁等又は山岳等の關係によつて主要道路は貫通して居らず只だ部分的に幅三間乃至五間程のものが建設されてあるがそのところ／＼に山石を割つた所謂石の小さいのが敷かれてあるところもある。西方海岸地方には十間乃至十四五間もある道路は相當の距離に通じてゐるがこれもまた鋪裝でなく、箇所々に砂利敷や山の赤石を割つたものを敷いてある。海岸線は頗る單調で東岸と西岸には良港と云ふ程の

ものはないがタタブとマヂュンの二港があるのみでタタブに輕便鐵道が僅かの距離間布設されてある。北部はやゝ出入が豊富で這般英軍が攻撃上陸を企てたデイエゴ、スアレス港は全島中唯一の良港である。この港には町を通じてゐる道路に石を以て鋪装してあるところがある。産業、經濟的價値の上から見るマダガスカル島は將來種々の研究調査が行はれて正確に資源や其他が判明すればいざ知らず現在では大いした經濟的價値はないのである。只だ農牧は相當やつてゐる、従つて交通の發達も港灣施設も誇るべきものがない有様である。只だ英國がこの島を経て印度と濠洲に聯絡を執る手段を講ずるのを大東亞の血によつて結ばれたる共榮圈の手に依つて遮斷せねばならないと思ふのである。

序いでに或る人は「夢の島」と云つたこのマダガスカル島を史的に觀察すると面白いことは數々ある。彼の有名な伊太利の旅行家マルコ、ポーロが東方見聞記中に、書いてあることがお伽話のやうに興味をそよるのである。彼れ

は先づこの島を世界の最大の島で肥沃の土地が澤山あると云つて。

駱駝の肉を常食とするマホメット教徒のサラセレンがこの島到るところに住んでゐて、巨象を捕へて空中に投げ殺してその死屍を食ふロツクと呼ぶ巨大な怪鳥が棲んである

と書いてあるが、この島は千五百年始めてポルトガル人に發見されるまでは全く遠い海のこなたの傳説の國、夢の島と文明人には思はれてゐたのであつた。又アラビヤ人は月の島と呼んでゐた位である。併乍ら時勢は和蘭英國人等の海洋制覇の思想に依つて漸次このマダガスカル島も認識せらるゝやうになつたがその植民事業は何れも失敗に終つて最初にこの島を領有することになつたのは千六百四十二年佛蘭西の領有宣言で端を發してゐるが、然しながら土着ホウア族との戦鬪は漸次困難を來したり、佛蘭西東印度會社の送つた移民は度々虐殺の目に遇ひ、更に佛蘭西革命の騷ぎや、ナポレオンの外征等のため本國政府はこれを顧みる

餘裕を持たず従つて移民的經營は頗る困難を極めたのであつた。千八百十五年のあの有名なウィーン會議でこの島の主權は佛蘭西にありと一應は認められたが、その支配力は實に微々たるものであつたので英國はこれに付け込んで英國は獨佛を繞る阿弗利加植民地の爭奪戰の激化に乗じて英國はホヱア族の王ラダマ一世を援助して佛軍を島外に驅逐したこともあつたのである。然るに千八百八十五年に至つて佛蘭西軍はホヱア族の軍を破つて女王ラナヴァロ三世にマダガスカル全島を保護國とする條約を強いて調印せしめ次いで翌年の千八百八十六年に英獨佛の三國協定に依つて佛蘭西の同島に對する主權の確保に附する代償として英獨が東阿弗利加東海岸のケニヤ、タンガニカ地方を分割占有するのを佛蘭西は確めたのであつた。

元來女王ラナヴァロ三世は頗る聰明たると共に勇氣に富んでゐる女性であつたが故に同族間の信賴をその一身に集めてゐたので佛蘭西の主權確保には容易に服従をなさずために佛蘭西は千八百九十五年の一月に又々出兵して西北海

岸のマジユンガ港を占領、進んで首都タナリヴの王城を砲撃して遂に女王は降伏して同年十月一日に新保護條約が結ばれたのである。次いで佛蘭西は翌千八百九十六年に於て同島併合を宣言したのである。而して女王ラナヴァロ三世は佛國のホヱア族に對する政策上から空位を擁してゐたのに過ぎなかつたのである。併乍らホヱア族の女王に對する信望は益々濃厚となつてその結果は反佛陰謀となつて表面化せんとして來たので佛國は遂に同島總督ガリエニを以て千八百九十七年二月二十七日の夜に女王の退位を命じたのであつた。こゝに於て悲劇の女王ラナヴァロ三世は翌二十八日の午前二時になつかしの首都を去つて嚴重なる護衛の裡に密かに東海岸のタマタウ港から東方四百哩の印度洋中の孤島レユニオンに送られたのである。當時の記録に依ると彼女は同族との別れを惜んで最後の告別を佛總督に哀願したが遂に許されなかつたと記してゐるが、この女王こそ故山を後にしてマタガスカル王朝の最後を彩つた悲劇の主人公であることは今尙同族間に傳へられてゐる悲話

である。マタガスカル島はかやうな歴史を持つ世界五大島の一つであるが、今後世界情勢の轉回につれて如何に成り行くか注意を要する問題たることは疑はないのである。

曩にセイロンとスエズの状況を觀察した本誌は今回は更に英軍の不法侵略となつた同島との概況に及んだが、今度は北に飛んで米國が嘗て日本を攻撃するに北路であると豪語してゐた、アリュウシヤン列島に目を移すことにするが、偲へば開戦以來約八ヶ月西南太平洋を完全に蹂躪し盡した我が無敵海軍は突如長い冬の眠から漸く目覺めたばかりの北太平洋にその鵬翼を延ばしてこの列島を攻撃したのであつた。この皇軍の突如たる奇襲によつて米國の北方の城砦アラスカとアリュウシヤンは新しい意味と新しき注目を惹くに至つたが、このアリュウシヤン列島に出撃して夏と共に北より日本を窺はんとする米國太平洋上の野望を破摧し去つたのである。雄渾無比との言葉は現實に見たのである。今試みに地圖を擴げて見ると、前記したマダガスカルからアリュウシヤンまで南北兩半球に互る戦線範圍とし

てはこれ以上の擴さは地球上何れを探しても見出し得ないところである。

併せてこのアリュウシヤン列島とは如何なるところであるかと云へば先づこれが地理的に觀ると、北太平洋とペーリング海峡とを分つ弧形状の列島であつて、東部に於てはアラスカ西南端に細長く突出したる所謂アラスカ半島と指呼の間にある。西部はカムチャツカ半島東方の蘇聯領であるコマンドルスキー諸島を遙かに望んで東西約千七百軒、大小百五十有餘の島々から成つてゐる。而して總面積は約三萬七千餘軒であるが、そのうち主なる島嶼はウニマツクであるが、これとて我國の佐渡ヶ島の約二倍程である。この次の島嶼はウナラスカ・ウムナツク・アトカ・アツツ等であるが百五十有餘の全島嶼は何れも海底山脈上に噴出したる火山島にてその島形の小さいのに比較して高度甚だ高く硫氣孔火山、噴出性火山、休眠火山等を合せて四十八の火山がある。恰もその半數は今尙噴煙の絶えない活火山である。而してウニマツク島にあるシシャルディン山は二千八

百餘米突で同列島中の最高峯であるが、大體に於て千五百米突から千米突までの火山が最も多いのである。その頂上は年中白雪を載いて巖石が隨所に露出してゐるが、海岸は火山島特有の砂濱は少く斷崖の形成をなしてゐる。またその半面に於ては海岸線は凹凸があつて灣また入江は多くウムナツク島キスカ島には溶岩が海岸に流出したところて砂洲を作つてゐる。島内には平地は僅少であつて丘陵が起伏して山腹には多數の濕地帯小湖沼が點在して毎年五月末から六月初旬にかけては雪とけのため一時湖水となるのである。而して氣候は例のアリユーション颱風の製造もとであるから頗る變則であつて一年中六月末頃から九月初旬までは夏である。そのあとは降雪と寒氣と烈風に加へて煙霧で立塞がつてゐる。併乍ら冬季は海洋氣候のために比較的暖くして平均氣溫は零度から同一分位である。夏季は七月の平均氣溫は十二度六分を最高としてゐるから従つて嚴冬凜烈とか灼熱肌を衝くとかの形容詞は用はないところである。

全體こゝの住民は米兵を除いて約三千人程と云はれてゐるがその半分は土人のアリユート族で漁獲と狩獵は従事して頗る原始的なる生活を營んでゐるが、土人は年々衰亡の一途を辿つてゐる。また残りの半數は米人土着民が漁獲に従事する季節的住民であるか或るは軍の關係者である。而して農耕は島嶼の特有的地形から殆んど行はれてゐないのみならず、牧畜もまた極めて微々たるものである。従つて日常食糧は一切これを海路によつて直接米本土又は加奈陀アラスカから仰求してゐる有様である。かくの如き狀況であるからアリユーション列島は經濟的には何等の價値も意義も持たないところであるが、北太平洋の北邊を扼する地理的事情からしてのアリユーション列島は軍事的重要性が生れて來るのである。即ちあの飛石狀の小島嶼は米國の國際上、海軍または空軍にとつても理想的なる足場である。更れば米國は勿論この島嶼の交通は主として船舶と航空機に依つてゐるが、島内の道路も經濟産業上の見地からは何等の考慮を拂はずして建設されてゐる。これは全く軍事上

の見地に基いて建設されたものであるが、併乍ら道路と云つては何等見るべきものはない。只だダツチハーバーはアリューシヤン列島中最大の軍事據點であるが、こゝには幅員十二、三間の道路が只だ十字形に敷哩走つてゐる。軍需品の陸上げや、運ぶ關係上所々には鋪裝を施してある。またダツチハーバーから約一哩程離れた對岸の部落である、ウナラスカは同島の中心地であるが、こゝには原住民は約一千人もゐるが、鋪裝道路ではないが溶岩を分碎してところ／＼に敷いた幅五、六間の道路は二重にかさなりあつて出來てゐる。其他にも道路はないではないが頗る貧弱にして文明的の道路と名の付けるものではない。丁度我國の如く田舎山間の細道と云つたやうなものである。殊に百五十餘の島嶼中全然道路と云ふものがない島もある位である。併乍らダツチハーバーはこの列島中最大の軍事據點であるだけであつて、天然の良港であり、恰もウナラスカ島ウナラス灣の中央部にあつて水深は深くして吃水三十呎、二萬噸級の大船を裕に横付けにすることが來るやうである。故にウナ

ラスカ灣全部を利用すると大艦隊も安全に圍ふことが出來るので名物の濃霧もこゝでは餘り深くなく嚴冬期も船が動けぬ程に凍結することはない。米國が従前からこゝを沿岸警備隊の基地としたのも當然である。更ればこゝには僅かの距離ながら米本土に倣つて相當立派なる鋪裝道路が出來てゐる。

嘗て九十年程以前に米國國務長官にシワードと云ふ人物が居たが、當時彼れは眠れる東亞に對する米國の經濟的帝國主義を強調して。……「太平洋はその洗ふところの岸邊、その寄るところの島嶼、更にその背後に在る廣大な土地と共に今後における世界競争の中心となるであらう」……と云つたが彼の言は其後に於て米國が先づアラスカ、ハワイ、フィリッピンと順次太平洋に於ける東亞侵略の足場を固めて敢行した事實に鑑みて首肯出來るのである。即ち千八百六十七年にシワードの主張によつて米國はアリューシヤン列島をロシヤからアラスカと併せて僅かに七百二十萬ドルで買收したのであるが、この總面積は五十九萬平方哩と云

ふ廣大なる土地である。これは米國が東亞、太平洋を狙ふ最初の一投石であつたのであるが、米國が本腰を据えてこのアリューシヤンの基地強化にとりかゝつたのは彼のワシントン會議からである。爾來二十餘年或は公然と或は極秘裡に海空軍の基地設定等その擴充を急いでゐたが、昭和十

一年ワシントン會議による太平洋の各國防備制限協定が廢棄せられて無効となると、米國はこれ待つかの如く益々アリューシヤンの強化を行ひ、道路等に至つても總て軍事的立場からのみ建設して以て巨費を投じて所謂北の城砦を作り擧げたのであつた。かやうにして太平洋北部の境界であるこの一連の列島アリューシヤンは米國北邊の要塞となつたのであるがこの内主たる基地を見るとダツチハーバーである。前記の如くウナラスカ島の東部にあつて列島中隨一の港であると共に太平洋方面からベーリング海に至る寄港地である。米國海軍はこゝに着眼して巨費を投じて軍港潜水艦空軍根據地等を設置したのである。故にこゝには海上から見望して立派なる鋪裝道路は縦横に布設されてゐる

軍舎點在する間を二十米突位の鋪裝道は交叉的になつてゐる。而して巨大なる貯油所貯炭所無線電信所測候所等があつてこの間を夫々鋪裝の立派なる道路に依つて結び付けられてある。こゝだけの道路は米本土式の道路である。

我が占領後鳴神島と命名されたキスカ島はダツチハーバーに次ぐ海空軍の基地であつたがこゝには水上機基地が完備してゐるが測候所無線電信局もある。また熱田島と命名されてキスカ島と同じく我が手に歸したアツツ島は、この列島の最西端に位してゐるが、この島には海空軍の前哨基地化されて各種の軍用建築物や道路等と建造中であつたがその中途にして日本に占領されて仕舞つたやうである。

尙その他ウニマツク島やウムナツク島及びアトカ島ニヤ島の諸島にはそれ／＼防波堤を持つ港灣豫備飛行場、測候所等があるが、米國海軍當局は尙ほ多くの軍事的諸施設これに伴ふ道路の布設等を調査中であつたが、未だ十分實現には至つて居ないやうである。而してダツチハーバーを始めアリューシヤン列島全部の開發經營はアラスカ・コンマン

ヤル・カンパニーが當つて居たが、この會社は半官半民的なる存在會社であつて、單に産業商業方面のみならず、軍需會社の役目をも果してゐて現にダツチハーバーの軍用棧橋及びこれに附隨する道路、倉庫、タンク等など皆なこの會社の所有になつてゐる。このアリニューシヤン列島に於ける軍事的價值は別問題としても將來は相當の價值があると思はれるのである。これは既に前世紀末に於て金床發見と共にベーリング漁場の開發で遂に米國北方の寶庫に祭り上げられたのであるが、アラスカの方は金床の發見で比較的調査も行き届いてゐるがアリニューシヤン列島の方は極く最近になつて見直れたために總ては未調査未開發であつたのである。従つて未到の調査も去る昭和十四年頃から開始されたのである。併乍ら將來この調査が日本の手に於て開始せられ着々進捗すれば或は意外なる經濟的價值を見出すやも計られないのである。又米國はこの列島を掌握してゐる

限りは、日本の北洋漁業は永遠に自由なる活躍が封じられてゐるやうな有様であつて、將來益々活躍せねばならぬ日

本の北洋漁業にとつては主要なる價值を持つてゐると思はれるのである。殊にアリニューシヤン列島とアラスカとに抱かれてゐるプリストル灣を中心とする鮭、鱒の漁場は世界に於ても有數のものである。これ等を思ふと同列島の水産業に對する價值もまた至大である。

世界の著名なる軍事消息通であるバイウオーターヤリツデルハート・ポールドウイン等はこのアリニューシヤン列島について觀察を下してこのやうに云つてゐる。

太平洋戰爭に於て米國の西南方面の退却は認めてゐるがこれは後方連絡線の尨大さに起因するのである。併乍らアリニューシヤンの列島はアラスカを直接の背後として尙ほその背後には加奈陀及び米本土がある。故に一應の後方連絡が存在する譯けである。米國は太平洋の沿岸加奈陀國境近くに廣大なる軍港を持つピュージェット・サウンド灣がある、深い運河でワシントン湖と結ばれてゐるが、同湖畔にあるセンドスポイントはアリニューシヤン列島及びアラスカの海軍基地の兵器廠の役目を勤めてゐる

のである。ピニュージエツト・サウンド軍港からアリニューシヤン列島のアツツ島までの距離は二千八百乃至三千海里に過ぎないのである。これでも自からアツツ島の地位が窺はれる。このアツツ島は既に我が手に歸して熱田島と命名されてゐる。米國空軍はかゝるアリニューシヤン列島から對日作戰を議してゐるがこの方面の濃霧、降雨は艦隊の防禦よりむしろ攻撃にとつて有利なる條件となり得る場合がある。

と軍事的批判をしてゐる、このアリニューシヤン列島の西方から我が東京までの距離は約三千二百キロであつて千島列島までは約千三百料であるから飛行機の發達した現今では實にひと跨ぎの間にある。

かやうの次第であるからアリニューシヤンの諸島嶼が完全なる軍事基地としてその機能を發揮するためにはどうしてもの背後に存在するアラスカ及びアラスア沿岸諸基地が至大なる關係を持つのである、これがためにアリニューシヤンの諸基地がアラスカの諸基地と強固に密接に連絡されて

ゐるのであつて、換言すればアリニューシヤンの基地はアラスカの諸基地を親としてゐるからである。故にアラスカの軍事的價値は夙に米國領有の當初から意圖せしところであつたが、これが實際に具體的に活用されて來たのは極く近年である。更れば米英共同戦線の現在に於て更にこのアラスカの背後に巨大に横はる加奈陀も亦その擔當する役割は無視し難いのである。これが故に米本土加奈陀アラスカ後方連絡線の欠陥を補ふために一昨年六月米國議會は大規模の米本土、アラスカ連絡軍用道路の建設案を上程した程である。更れば次號に於てこのアリニューシヤン列島と至大の關係を持つアラスカの現勢及び産業資源や更にまた彼の米本土とアラスカを連絡軍用道路等の大路を觀察して見ることとしたのである。

附記、丁度この稿を了へたときに外電は果然英海軍は東印度近海、印度洋の諸作戦が極めて不利となつたのでマダガスカル島に逃避せねばならなかつたことを報じてゐる。(八月十四日記)